（様式２）

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・３０　〉　いわき市立御厩小学校

＜実施日＞　　平成　２８　年　６　月　１７　日（金）

＜実践教科等＞　※当てはまる番号に〇を付けてください。４は（　）に教科等を入れてください。

１　理科　　②　学級活動　　３　総合的な学習の時間　　４　その他（　　）

＜実践内容＞

「放射線ってなんだろう」　３学年

〇何がおこったの？

・平成２３年３月の大きな地震と津波が起こったこと。
・「東京電力福島第一原子力発電所」で事故が起きたこと。
・事故のために放射性物質が外に出てしまったこと。
・放射性物質が遠くまで飛んで、土やアスファルトについたこと。
・福島県内に放射性物質が広がったこと。

〇放射線って何？

・放射線は目に見えないこと。
・放射線は自然の中にもあること。
・放射線はレントゲンなど病院でも使われていること。
・放射線はコンクリートを通り抜けないこと。

〇放射線から身を守るには？

・放射性物質から離れる。　　・コンクリートなどの建物の中に入る。
・放射線を受ける時間を短くする。

資料：環境省「調べてなっとくノート」
　　文科省「小学生のための放射線副読本」

※ 平成２８年１月２５日（月）実施　５学年

・文部科学省委託事業「科学的な理解をすすめる放射線教育セミナー」の実施。
・講師　いわき明星大学教養学部特任教授　石川哲夫先生
・内容「放射線ってなんだろう」
　・放射線で気になること　　・私たちの身の回りにある放射線
　・放射性物質と放射能、放射線の違い・放射線の通過率　　など
・行った実験等・・・霧箱実験、キャッチボール実験、遮蔽実験等

＜成果＞

・放射線のことを漠然としか知らなかった児童たちが、人体にはよい影響がないことや病院で使用されていることなど、具体的なことを知ることができた。
・身を守る方法をわかりやすく説明したので、自分でもできそうだと思った児童が多く、身を守ろうとする意識が高まった。

＜課題＞

以前なら、地震と原発事故の説明があまり必要なかったが、事故が起きた時に幼児だったため地震があったことを覚えていない児童が増える中で、なぜこの学習をするのかということをどのようにして理解させるかが課題である。また、地震のことを思い出させてよいのかという疑問もある。小さい学年にとって分かりやすい教材がないことも課題だと思う。

資料作成担当者職（教諭）氏名（　江尻　聖子　）	学校電話番号　（２６−２２９７）

【 資料作成上の注意 】

１．平成２７年８月～平成２８年７月の実践についてまとめてください。
２．提出期限の平成２８年８月１日（月）までに電子メールで送信してください。
　（送信先：kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp）